
氷カクーラー！？

紀璃人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷カクーラー!?

【Nコード】

N0120U

【作者名】

紀璃人

【あらすじ】

暑いのでチルノが？全開です。

(前書き)

後期作品になります。

夏が来ていた。この夏はとても暑かった。で、あるからして。当然氷精たるチルノはだらけきっていた。

「あぢー」

「だよー」

「ホント、溶けそう」

「チルノちゃんなんかは特にね」

「あはは、確かに」

「あによう、笑いごとじゃないんだから」

大妖精が答え、リグルが続けた。三人はいま湖の木陰にいた。

「でも、チルノちゃんの周りは涼しいよ？」

「あたいはあついのよ!」

大ちゃん(´・`・´) ショボーン

折角褒めてあげようと思ったんだけど。と大妖精は思った。それと同時に嫌な予感がした。そしてこういつた予感はいたいあたるものである

「こうなったら幻想郷ごと氷漬けにしてやるんだから!」
かくしてチルノの無謀な挑戦は始まったのである。

ど、どうしよう。またチルノちゃんが無謀なことを…。止めた方がいいのかな…。でも暑いし、多分涼しくなるよね？

正常な思考が熱でやられている大妖精だった。

「で、どうやるつもりなんだ？」

「あたいのパワーをなめるんじゃないよ!」

「チルノちゃん、具体的には？」

「ぶちまける！」

言うが早い！チルノは周囲に冷気を放ち始めた。もちろん隣にいた大妖精やリグルは大慌てで離脱した。

寒い！冷たい！凍えそうだよー！

なんとか冷気がぎりぎり届くところを見つけリグルと涼んでいると、だんだん寒くなってきた。

あれ？冷気がさらに拡がってる？え？

涼んだことで正常な思考が戻ってきた大妖精は正直焦っていた。

あわわわわ……。どうしよう。このままじゃあ大変なことに。

「リグル君！なんとかしたほうがよくない！」

「ん？まあ、結構大変だけどあんまり長続きしないんじゃない？結構全力みたいだし」

確かに少し暖かくなってきた気がする。大妖精が安心すると自分がリグルに抱きついていていることに気がついた。

そして、さっきの冷気で雪やダイヤモンドダストが積もった木陰でこっちをみるチルノと目が合っ。

ああ、どうしてこんなことになったの……？

「あんたら離れなさいよー！さもないと氷漬けよー！」

「そんな余力なさそうだけどなあ」

怒るチルノとそれを笑うリグルにあわてる大妖精。そんないつもの光景が、銀色の真夏の湖で繰り広げられていた。

F i n

(後書き)

実はこれが最後のストックだったりする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0120u/>

氷カクーラー！？

2011年10月9日04時54分発行